

科目名	市大都市研究の最前線	単位数	2	授業 形態	講義	担当 教員	じょん ほんぎゅ 全 泓奎 (都プラザ) 他
英語表記	The Forefront of Urban Studies in Osaka City University						

●科目の主題

都市研究プラザ(URP)は、本学の建学精神(「大学は都市とともにあり、都市は大学とともにある」)を受け継ぎ、「都市を学問創造の場」としてとらえ、都市の諸問題に正面から取り組んできた。そして、グローバル COE「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」を推進し、独自に築いた海外センター・オフィスを始めとする国際的なネットワーク、そして大阪や名古屋の都市で展開する現場プラザとの協力の下、先端的都市研究に向けた学際的かつ広範囲の分野に渡る研究実績を積んできた。また 2014 年度からは、これまでの研究活動の蓄積によって育まれた、国内外の包摂型現場ネットワークの活用による共同研究活動を最大限活かす形で、文部科学省により共同利用・共同研究拠点として選ばれている。本講義は、本拠点による共同研究の成果の報告から構成される。授業内容・計画に提示する分野ごとに、先端都市研究に向けた研究活動の最新の研究動向を知ることができる。コミュニケーションカードを用いて双方向の対話を試み、理解の深度を高めてゆく。

●科目の到達目標

複雑かつ多様化しつつある都市問題に対応し、大学の資源を利用しながらどのように都市の再生に取り組んでいくか、それが今後の都市研究の一つのカギとなる。この課題に対し、研究の第一線で活躍している都市研究プラザ関連教員の方々から最新の研究動向や実績をまず学び、理解することが求められる。また、コミュニケーションカードを通じ、学生側のコメントとそれに対する講師の回答という双方向の意見交流を組み込むことにより、学生同士の切磋琢磨や講師の気づ

きなどの仕掛けも組み込んでいる。これらを通じて、当代の都市問題に対応した先端的都市研究の含意を、理論的かつ実践的に理解してほしい。同時に都市問題の仕組みを理解し、課題の把握、分析、都市の再生に向けた対策立案能力の取得のためのヒントを得ることを通じ、今後の受講生のキャリア形成の第一歩としたい。

「市大都市研究の最前線 2017：包摂型アジア都市とレジリエンスの試み」

●授業内容・授業計画・講師(敬称略)案：

オムニバス形式の授業で各教員が分担して講義するため、講義内容は毎年変わる。

【包摂型創造都市とレジリエント都市の創生】

(第1回～第5回)

包摂型創造都市とレジリエント都市に関する都市研究の成果を紹介する。

第1回：(イントロダクション) 就労なき社会的包摂の可能性：阿部昌樹、法学研究科教員・URP 所長

第2回：レジリエンスとしての都市反乱：箱田徹、天理大学教員・URP 特別研究員

第3回：復元力・文化編集・世界遺産：創造的な述語(動詞)で編集・包摂する：岡野浩、URP 教員

第4回：参加型仕事づくりの試みから明らかになる労働観と外部者の役割：綱島洋之、都市研究プラザ特任助教

第5回：近世大坂の非人集団の生存環境と家：塚田孝、文学研究科教員・URP 特別研究員

【都市空間再生に向けた包摂型アートマネジメントと多文化都市】(第6回～第9回)

アートマネジメントと多文化都市が生み出す包摂型都市空間再生に向けた理論と実践を紹介する。

第6回：アジアを視野に入れた社会包摂型アート
マネジメントの形成に向けて：中川真、
URP 特別研究員

第7回：都市の忘却空間となった水都再生 -水都
大阪の挑戦-：嘉名光市、工学研究科教員・
URP 兼任研究員

第8回：民族関係論の成果と課題：谷富夫、甲南
大学教員・URP 特別研究員

第9回：大阪の長屋保全まちづくり～この10年
の振り返り：藤田忍、生活科学研究科教
員・URP 兼任研究員

【包摂型アジア都市と居住福祉実践】(第10回
～第14回)

包摂都市の構築に向けた課題と居住福祉の実
践に関わる共同研究の成果を紹介する。

第10回：東アジアと欧州を架橋する包容力ある都
市論の構築とレジリエントな安全網の
生成：水内俊雄、URP 教員

第11回：東アジアにおける貧困と社会政策：五石
敬路、創造都市研究科教員・URP 特別研
究員

第12回：居住福祉を基調とした地域福祉施策にお
ける専門職の役割：野村恭代、生活科学
研究科教員・URP 特別研究員

第13回：包摂型アジア都市への「中間的社会空
間」試論：穂坂光彦、日本福祉大学特任
教員・URP 特別研究員

第14回：東アジア都市における生産主義福祉モデ
ルと居住福祉の実践：全泓奎、URP 教員

●事前・事後学習の内容

シラバスで指定する【テキスト】の講義関連チ
ャプターを、事前に予習のうえ講義に出席するこ
と、講義後は、適宜【補助教材】もあわせて参照
したり、講義中に教員から紹介のあった内容につ
いて調べ、理解を深めてもらいたい。

●評価方法

毎回の講義の終了時に提出するコミュニケー
ションカード及び平常点により評価を行う。

●受講生へのコメント

講義は、担当教員が招聘するゲスト講師を中心
にオムニバス形式で行うが、理論と実践を網羅し
た多様な知識を提供するため毎回の講義出席が
前提である。また、日頃から都市や地域の再生に
ついて関心を持ち、関連する情報を収集する学習
姿勢を望みたい。なお、このコミュニケーション
カードにかんしては、全般的、個別的な回答を講
師から受けることとなり、学生にもゲスト講師に
もフィードバックできる方法を用いるので、短い
時間ではあるが各講義後のコミュニケーションカ
ードの記入には、真剣に取り組んでいただきたい。
またゲスト講師の都合で順番が入れ替わること
もあるため、授業期間中の掲示に注意すること。

●教材

講義では、プロジェクター等を用い、必要に応
じて、レジュメ・資料のプリントの配布を行うが、
以下のテキストを入手することが望ましい。

- ・【テキスト】阿部昌樹・水内俊雄・岡野 浩・
全 泓奎編 (2017)『包摂都市のレジリエンス：理
念モデルと実践モデルの構築』(仮題)、水曜社
- ・【補助教材】全 泓奎編 (2016)『包摂都市
を構想する：東アジアにおける実践』、法律文化
社